最新研究紹介

農林技術研究所だより

酒米「令和誉富士」の育成と栽培方法

静岡県農林技術研究所
水田農業生産技術科
上席研究員
山下　達也

一 はじめに

静岡県に新しい酒米が生まれました。その名も「令和誉富士」。米の旨味が感じられるまろやかさと、高い香りを持つ、静岡県を代表するにふさわしい酒米です。

右：山田錦
中：令和誉富士
左：誉富士

図１　令和誉富士の草姿

二 「誉富士」の課題

酒米「誉富士」は、当研究所で育成した酒米で、平成21年３月に品種登録されました。「誉富士」は、その酒質の良さから県内酒造業者に幅広く使用されましたが、収量性が低く、穂発芽し易いことが課題になっていました。

そこで当研究所で、「誉富士」の酒質の良さを保ちつつ、これらの栽培上の欠点を改善した新品種の育成に取り組みました。

三 新品種「令和誉富士」の誕生

「令和誉富士」は、山田錦γ線照射突然変異系統のＹＭ３１０（「誉富士」の兄弟系統）を父に、愛知県の育成品種「夢吟香（ゆめぎんが）」を母とし、平成20年８月に当研究所において交配した後代から育成しました。（図１、２）

平成20～21年にＦ１を温室内で養成、平成21年にＦ２採種を行い、平成22年～23年に集団採種によりＦ３～Ｆ４の世代で遺伝的な固定を進めました。平成24年にＦ５世代で個体選抜を、平成25年に系統選抜を行い、以後、系統育種法により選抜と遺伝的純度の固定を行いました。平成26年Ｆ７世代から「Ｓ１０１０－１」の系統番号で系統生産力検定試験に、平成27年Ｆ８世代から奨励品種決定試験予備調査に供試し、平成29年Ｆ10世代からは「静系（酒）97号」の系統名で奨励品種決定試験本調査に編入して優れた特性を示したことから、令和４年１月に品種登録出願し、同３月に奨励品種に採用されました。

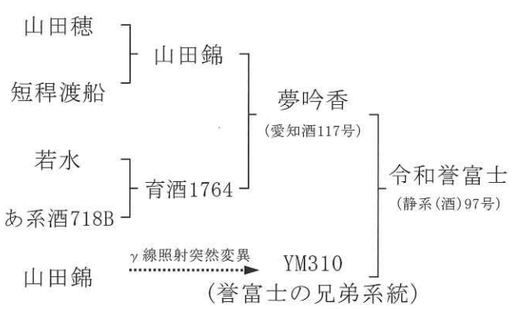

図２　「令和誉富士」の系譜

四 品種の特性

「令和誉富士」は「誉富士」と同様の晩生熟期です。

平坦地では、６月１日前後の移植で、８月25日ごろに出穂し、10月３日ごろ成熟期になります。

稈長は「誉富士」より14㎝程度長いですが、稈質が固くやや太いため、倒伏にはやや強く、穂発芽性は「誉富士」より優れる「やや難」です。（図３）

玄米は粒に厚みがあるためくず米が少なく、単収は４５８㎏と、「誉富士」より１割以上多く収穫できます。（図４、図５）

また、玄米の外観品質は光沢が優れるため「誉富士」より優れます。（図６）

図５　単収

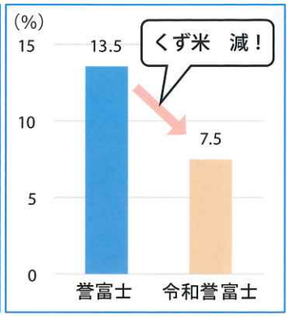

図４　くず米の割合

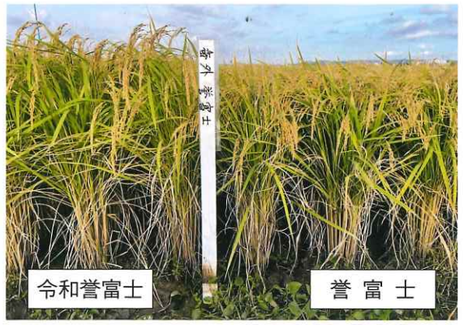

図３　ほ場での草姿

図７　「令和誉富士」の移植日と成熟期（令和４年産　磐田市）

図６　籾と玄米

五 栽培方法

(一) 移植時期

「令和誉富士」の移植適期は５月下旬から６月上旬です。

その時期以外に移植すると、玄米外観品質の低下や玄米タンパク質含量の増加が懸念されます。

なお、移植時期ごとの出穂期と成熟期は図７のとおりです。

(二) 施肥法

適正な施肥量は窒素成分で10アール当たり6.5から8.5㎏です。なお、側条施肥であればこれから２割、緩効性肥料であればさらに１割施肥量を削減できます。

施肥法は、基肥一発肥料による省力化が可能です。中晩生用の「速効性窒素が40パーセント、緩効性窒素が60パーセント」のタイプが好ましく、早生用のタイプでは登熟後半に肥効切れを起こす可能性があり、緩効性成分が晩生用の１２０日のタイプでは玄米タンパク質含量が高まるおそれがあります。

(三) 収穫時期

「令和誉富士」の収穫適期は帯緑籾歩合（未成熟の籾の割合）が約10パーセントの時期です。その目安は出穂後35日から45日（積算温度９３０～１１５０℃）程度で、それ以降は玄米外観品質が低下します。

帯緑籾歩合が半減するのに要する日数は、８月から９月中旬の高温時期は５日程度、９月下旬以降の気温では７日程度を目安にしてください。帯緑籾歩合が７パーセントを下回ると穂発芽の危険性が高まります。

六 おわりに

「令和誉富士」は、「誉富士」の醸造適性の高さを引き継ぎつつ、収量性と耐穂発芽性を改善した大変有望な品種です。

本品種から醸造された清酒は酒質も良好で独自性があり、静岡県オリジナルの魅力的な特産品としての活用が期待できます。

今回紹介した栽培法等を踏まえ、ＪＡ静岡経済連及び静岡県米麦協会と協力して栽培暦を作成したので、ご覧になりたい方は各ＪＡまでお問い合わせください。

連絡先
磐田市富丘678－1
静岡県農林技術研究所
水田農業生産技術科
Mail：agrisuiden@pref.shizuoka.lg.jp
TEL：0538-33-6678